

2006年度

森林施業ガイドライン講習会

報告書



特定非営利活動法人 森づくりフォーラム

●この冊子は「独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金」の助成により作成しました。

2006年度

“森のたからもの調査隊”研修
森林施業ガイドライン講習会

報 告 書

はじめに

森は、様々な機能を持っており、私たちにはなくてはならない存在です。森の大切さや手入れ不足の現状が広く知られるようになり、市民参加の森づくり活動が広まってきています。

ところで森づくり活動は、自然や地域社会、歴史、人々の関わりや期待など、その森ならではの状況に基づいた将来目標を描き、そこに向かって森に関わっていく活動だといえます。つまり、森をいろいろな視点から客観的に知るとともに、関わる人々が想いや希望をお互いに伝え合って、意思疎通を図りながら将来目標を描く必要があります。そして実現可能な計画を立て、実際に活動し、その活動が目標に向かって適切に行われているか定期的にモニタリングすることも重要です。

このような社会性ある森づくり活動を実行する手助けとして、森づくりフォーラムでは「森を知る」「計画する」「作業する」「見直す」の四段階で森づくり活動をとらえ、具体的な手法などを提案した「市民参加の森づくり活動における森林施業ガイドライン」を作りました。2006年度は、ガイドラインの考え方が現場での実践につながっていくようにと、いくつかの調査と、目標設定・ゾーニングのワークショップの講習会を開催し、本報告書にまとめました。「調査が大事なんだ」「楽しそう、自分でもできるかも」「新しい森づくりの展開が思いつきそう」…そういうことを少しでも感じてもらえば、うれしく思います。

たとえ市民であっても、森と関わる以上は社会性ある活動が求められるものです。そのなかで、市民ならではの森の新しい価値を見つけ、森と人との関わりづくりを広げて、森の人も豊かになっていければと願っています。

特定非営利活動法人 森づくりフォーラム

※本報告書は「市民参加の森づくり活動における森林施業ガイドライン」の流れに沿って構成したため、実際の講習会開催順序とは前後している部分があります。

2006年度

森林施業ガイドライン講習会 “森のたぐらもの調査隊”研修

報告書

はじめに 2

講習会実施フィールドマップ 4

“森のたぐらもの調査隊”研修

- ①森づくりの基礎を確かめる 6
- ②生き物の24時間の大捜査! 8
- ③秋の草から森を知る 14
- ④鳥はどんな場所が好き? 18
- ⑤森の健康診断 22
- ⑥ゾーニングと目標設定のワークショップ 28

生き物調査自主活動・木下沢交流会 38

おわりに 39

「森のたからもの調査隊」研修」とは

市民にも初心者にもできる、森のさまざまな調査や森づくりの計画・目標作成の体験講座です。森づくりフォーラムは、森づくりを「作業」だけでなく、「森を知る」「計画する」「作業する」「見直す」という四段階で考えて、「市民参加の森づくり活動における森林施業ガイドライン」を作りました。この研修では、「森を知る」「計画する」の段階について提案した調査や計画作りの方法を、木下沢（こげさわ）都有保健保安林で実践してみました。



- 【凡例】
- ピンク：9月2日～3日の生き物調査地点（ライトトラップ、ペイトラップ、シャーマントラップ、センサーカメラ）
 - 緑：9月23日の植生調査コドラーート
 - オレンジ：2月24日の鳥類調査ルート
 - 赤：2月17日・18日の森の健康診断調査ポイント
 - 青：木下沢 ●☆印：あずまや
 - 黒点線：12月9日・10日のワークショップ対象エリア

…ヒノキ林 …落葉広葉樹林
…スギ林



●木下沢都有保健保安林（八王子市裏高尾町）とは
JR高尾駅からバス13分、下車後徒歩20分の場所に位置するこの森は、かつては地元の共有林でした。モザイク状にスギ・ヒノキ人工林、薪炭林として使われていた広葉樹林などがみられ、尾根や谷などもあって、林相や地形の変化に富んでいます。南側の谷部に木下沢と木下沢林道が通っている南斜面60haのうち、約10haでボランティアが活動しています。

“森のたぐらもの調査隊”研修①

森づくりの基礎を確かめる

～市民ならではの森づくりを考えよう&調査計画を作ろう～

目的

森の様々な機能についての基本を知り、市民ならではの森とのかかわりについて考えます。環境に配慮した森づくりをしていくために、調査の大切さや調査計画の作り方を学びます。

概要

森の持つ様々な機能についての基本や、私たちにも無縁ではない海外の森の現状などについて講義いただき、市民が森とかかわる意義を振り返ります。続いて、森にすむ生物や植物にも目を向けた森づくり活動を進めていくための調査の重要性や、具体的な調査計画の立て方について、市民参加で調査やモニタリングを行ってきた事例を参考に講義していただきます。

開催日

2006年8月5日（土）

会場

全国地球温暖化防止活動推進センター 会議室

人数

参加者12名 講師3名 スタッフ2名

講師

講義①天野正博氏(早稲田大学)
講義②篠田授樹氏(地域自然財産研究所)
講義③藤田薰氏(財団法人日本野鳥の会、
横浜自然観察の森)



“森のたぐらもの調査隊”研修①

森づくりの基礎を確かめる

～市民ならではの森づくりを考えよう&調査計画を作ろう～

8
5
（土）

午
後
12
<
3
6

13:00開講

12
午
後
<
3
6

14:20

●開講式、講義①市民参加で目指す豊かな森づくり

「豊かな森」とはどんな森か考えるときに、森林の持つ様々な機能を知っておくことが大切です。講義①では、森林の機能について最新の情報や海外の事例も交えながら、お話しいただきました。また、多様な主体が森林に関わることの大切さ、そのなかでの市民・森林ボランティアの役割、合意形成の重要性などについても触れました。



●熱帯林の伐採現場の写真に、真剣な表情で注目です。

講師のコメント

森林の機能や森林問題を考えるときに、世界の中での位置づけを考えることが大切です。樹木の種数を例にとっても、日本は非常に多く約2000種といわれていますが、ヨーロッパでは60~70種です。花粉媒介をみると、熱帯林は虫媒花が多く、一度生物相が壊れるとその再生は容易ではありませんが、温帯林は風媒花が多いのが特徴です。熱帯林減少という問題には、人口や世界規模の木材流通など複雑に絡み合った原因があり、日本にいる私たちにも無縁ではありません。また、その結果起きる様々な問題も地域から地球レベルまで様々で、問題解決には社会的な側面にも目を向ける必要があります。

●講義②調査計画を立てる（昆虫類、哺乳類）、講義③調査計画を立てる（鳥類、植物）

調査は目的を持って行うもので、その目的に基づいた調査計画を立てる必要があります。環境保全活動や森づくり活動をするなかで、昆虫、哺乳類、鳥類、植物について調べる意義についての話と、調査計画を立てる際のポイントや結果のまとめ方を講義いただきました。



●鳥類、植物調査の計画では、横浜の事例を紹介していただきました。

講師のコメント

森林ボランティア活動に生物調査を取り入れると、環境面に配慮した作業や新しい参加者の広がり、会員以外の人からの信頼獲得などにもつながっていくようです。「希少種の有無を知る」「林相の違いと生物相の関係」などを知りたいのかを明確にして、今の自分たちができることを、まずは2年間ぐらい続けてみてはどうでしょうか。

植物には、森の生物の棲みか・食料という面があり、また環境によって種類が違うので環境指標になるという面もあります。また、鳥は食物連鎖の上位にいる生物で、やはり環境指標になりますし、見つけやすいのも特徴です。調査の条件を決めて、結果を記録し、調査を繰り返せばモニタリングになります。

専門家のアドバイスをもらうといいですよ。職業としてやっている人だけでなく、市民でも詳しい人・好きな人は専門家だといえます。近くで開かれる探鳥会や観察会に参加すれば、自分で種類を覚えたり専門家の知り合いを作ったりするきっかけになります。

“森のたぐもの調査隊”研修②

生き物の24時間を 大捜査!

目的

木下沢の森にどんな生き物がいるか調べます。生き物を通して森の環境を探ってみます。

概要

小型哺乳類を調べるシャーマントラップ調査、夜行性昆虫を調べるライトトラップ調査、地表付近の昆虫を調べるベイトトラップ調査、夜間に行動する哺乳類の自動撮影を行います。

開催日

2006年9月2日（土）～3日（日）

天気

9月2日 晴れ 9月3日 晴れ

人数

参加者11名 講師1名 スタッフ3名

ガイドライン該当ページ

64～67ページ、81～83ページ、89～91ページ

服装

長袖シャツ、長ズボン、濡れても大丈夫な靴・長靴等、手袋（軍手）、帽子

参加者持ち物

- 現地実習で使うもの…1日目昼食、飲み物（水）、水筒、筆記用具、ワークシート、デイパック等、雨具、ヘッドラップ（懐中電灯でもよい）、あれば双眼鏡

- 宿泊関係…洗面用具、タオル、着替え、部屋着・パジャマ等、常備薬、保険証（写し）

調査用の備品など（講師・スタッフが用意）

- シャーマントラップ調査…シャーマントラップ（箱トラップ）、ヒマワリの種、荷札、「調査中」の看板



- ライトトラップ調査…ライト、白いシーツ、支柱

- ベイトトラップ調査…プラスチックのカップ、肉、さなぎ粉、唐辛子の粉

- 自動撮影…センサーcamera、ネガフィルム、「調査中」の看板

講師

篠田授樹氏（地域自然財産研究所）

●開講式、実習エリア全体の踏査

講習会の実習エリアで開講式です。2日間を過ごす仲間どうしの顔合わせや、スケジュールの確認をしました。それから調査ポイント探しとアニマルトラック観察を兼ねて、森の中を歩きました。



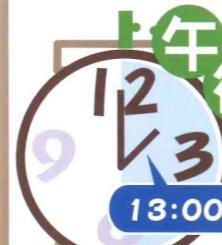
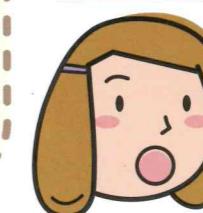
10:00 開講



講師のコメント

注意深く歩いていると、いろいろなものを発見できます。例えばリスはスギの皮を剥いで巣の材料にするので、スギの皮が縦に剥けていることがあります。動物の糞も重要なアニマルトラックですが、触るときには素手ではなく、必ず手袋かピンセットを使いましょう。

本当にエビフライみたい！



13:00

●シャーマントラップの設置、ベイトトラップの設置、ライトトラップの設置

シャーマントラップとベイトトラップを、林道近くの下草の多い場所と、やや乾燥した尾根の2ヶ所に設置しました。また、ライトトラップは沢の近くと尾根の2ヶ所に設置しました。環境の違いが調査結果に現れるか、楽しみです。



どうか入ってくれますように！（て、トラップの入り口に種をてんこ盛りにする。）



講師のコメント

動物の気持ちになってセットしてみてください。木の根元や倒木の際などがいいですよ。置いた場所を忘れないように、トラップ近くの木の枝に札やテープなどを結びつけておきましょう。

生き物の24時間を
大捜査!

9月2日(土)
午後
12時30分
15:00



●ベイトトラップは、地面に穴を掘ってコップを埋めて、中に腐らせた肉やさなぎ粉などを入れて虫をおびきよせます。



●日没の前にライトトラップを設置します。フレームを立ててシートを張ったら、ライトを点灯して夜まで置いておきます。

講師のコメント

キツネやタヌキ除けに、一味唐辛子を振りかけるといいですよ。

9月3日(日)
午前
12時30分
19:00

●ライトトラップ調査

夜7時ごろになったら、スクリーンに集まつたたくさんの夜行性昆虫を調べにトラップを見に行きます。



よく見ると、ガの色や模様
ってきれいだね！

虫が苦手な人が見たら、
気を失うかもね。

●ちょっと怪しげな一団が山道を登っています。



●すごい数と種類の虫が集まっています。

講師のコメント

それぞれの種名が分からなくても、大まかなグループごとに個体数を数えることから始めてみましょう。写真を撮つて詳しい人に見せれば、名前を教えてもらうこともできます。チョウやガは幼虫の食草が決まっているので、ガが多ければ植物の種類も多いといえるかもしれません。

生き物の24時間を
大捜査!

9月3日(日)
午前
12時30分
9:00

●シャーマントラップ調査、ベイトトラップ調査

前日仕掛けておいたシャーマントラップとベイトトラップに何がかかっているか、中を調べます。

中で何か動いている！

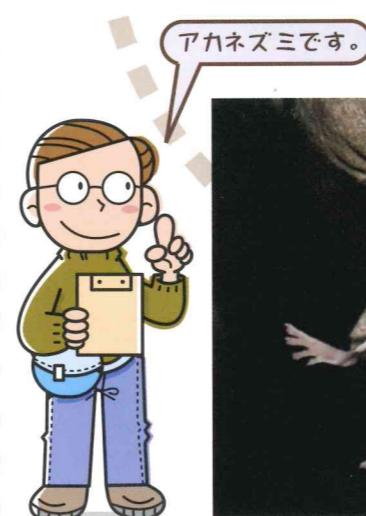


●自分が置いたシャーマントラップの扉が閉じていたら、そっと持ち上げてネズミ類が入っているか確かめます。



餌だけ食べて逃げられた…残念！

元気が良くて外に飛び出してくるよ！
扉を開めないと！



アカネズミです。



●扉をそっと開けたら、中にネズミがいました。

講師のコメント

今回は、全部で50個のトラップのうち6個に入っていました。また、下ではアカネズミとヒメネズミが、尾根ではハタネズミが捕まり、いい結果が得られたと思いますよ。



●ベイトトラップにも虫が入っていました。

講師のコメント

オレンジ色が目立つヨツボシモンシデムシが入っていますね。自然環境の状態がよい場所では、甲虫類のなかでこのヨツボシモンシデムシの比率が高めになるようです。

かわいいね。

生き物の24時間を大捜査!

9
3
(日)午
前
12
9
3
11:00

●センサー設置、閉講式

この森には、もう少し大きい動物がいるかもしれません。沢や尾根は動物が通ることが多いので、センサーを2週間ほど設置して自動撮影に挑戦してみます。



●楽しかった2日間の講習会もそろそろ終わりです。みんな最後まで熱心に質問したり、メモをとったりしていました。



●自動撮影をしていることが分かるように、「野生動物のおさします。調査中です」と書いた看板もくっつけています。



夜行性昆蟲類の調査 ワークシート

170台設置時間

日時	2006年9月2日 15:30 ~ 19:30	天候	快晴	雨	小雨	雨
場所	東京 青梅(13)町・村 東高森町木下沢	標高	m	気温	?	℃
地図	1 (13) 国土メッシュ					
面積	実測地: 計量地: 草原・水辺・その他()					
特記事項	調査地点は下げ村幹下、-1沢沿い					
調査者(計測者)	吉井					

主な種類(分かるもの)

大まかなグループ	個体数	
蛾類	170	=A
(最も多い1種)	(5)	=B
トビケラ類	15	
脈翅系	1	
ハエ類	189	
ハチ類	4	
コウチュウ類	16	
カメムシ類	2	
直翅系(バッタ、コオロギ等)	5	
その他の昆蟲	3	
昆蟲合計	405	=C
昆蟲以外	0	

A/C = 42.0%
B/A = 1.2%

スケッチ(調査地の様子-同時に確認した生物などを記述する)

生き物の24時間を大捜査!

(1)調査結果一覧

ライトトラップ

大まかなグループ	個体数	
	地点1(下の沢近くのスギ林下)	地点2(尾根、ヒノキ林と広葉樹林の境)
蛾類=A (うち最も多い1種)=B	170	97
トビケラ類	15	2
脈翅系(ヘビトンボ等)	1	0
ハエ類	189	17
ハチ類	4	19
コウチュウ類	16	7
カメムシ類	2	10
直翅系(バッタ、コオロギ等)	5	7
その他の昆蟲	3	5
昆蟲合計=C	405	164
昆蟲以外	0	0

合計に占める蛾の個体数の割合 A/C	42.0%	59.1%
蛾のなかで最も多い1種の割合 B/A	1.2%	6.2%

A/Cが大きければ、蛾の食草となる植物が豊かだと考えられる。

B/Aが小さければ、多様な蛾が生息できる植物相があると考えられる。

シャーマントラップ

	地点1(下のスギ林内)	地点2(尾根、ヒノキ林と広葉樹林の境)
捕獲数(nt)* 種類	6/25nt アカネズミ5、ヒメネズミ1	1/25nt ハタネズミ1

nt: 一晩設置しておいたトラップ数

ベイトトラップ

	地点1(下のスギ林内)	地点2(尾根、ヒノキ林と広葉樹林の境)
捕獲した甲虫数と主な種類	4(ヨツボシモンシテムシ2、ゴミムシ類)	2(1)

(2)センサー設置の写真



●尾根のカメラに写ったタヌキ



●沢のカメラに写ったコウモリ類

“森のたぐらもの調査隊”研修③

秋の草がら
森を知る

目的

木下沢の森にどんな草が生えているか、また森の状態によって草の生え方や種類に違いがあるか調べます。

概要

1m×5mのコドラー（四角形の調査区）を、状況の違う場所を選んで9ヶ所に作り、生えている草の株数と種類を記録します。（今回の参加者には植物観察経験者が多かったため、コドラー法を行ってみました。）

開催日

2006年9月23日（土）

天気

晴れ

人数

参加者18名 講師1名 スタッフ6名

講師

勝木俊雄氏(独立行政法人森林総合研究所)

服装

長袖シャツ、長ズボン、山歩きのできる靴、手袋（軍手）、帽子

参加者持ち物

昼食、飲み物（水）、筆記用具、ワークシート、デイパック等、雨具、あれば剪定ばさみ、標本をはさむための新聞紙、図鑑

調査用の備品など（講師・スタッフが用意）

予備の新聞紙、図鑑

ガイドライン該当ページ

62～63ページ

●開講式、実習エリア全体の踏査とコドラー設置場所の選定

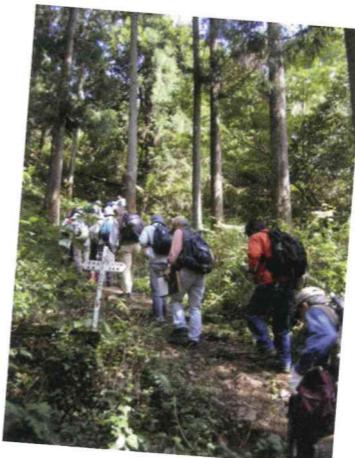
講習会の実習エリアで開講式を行い、地図を見て調査をするエリアを確認しました。それから、どのような森があるのか観察しながら実習エリアを歩き、コドラーを作る場所を9ヶ所選びました。

9
2
(土)
午前
10:00開講

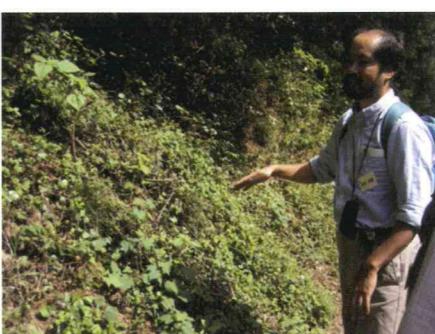
12
9
6
3



●開講式の様子です。



●みんなで実習エリアを歩きます。



●明るい林道沿いにもコドラーを作ります。



午前
11:45

12
9
6
3

●担当コドラーを決めて、植生調査の進め方を聞く

二人一組になって、担当するコドラーを決めました。それから、午後の植生調査のやり方を講師から説明していただきました。

●講師のコメント

コドラー内の植物の種類と株数を、記録用紙に記入します。種類が分からぬ植物は、新聞紙にはさんで標本にして持ち帰り、図鑑で調べます。葉のつき方も識別のポイントなので、茎に葉の着いた状態で標本にしましょう。

同じ組ですね。
ようしくお願いします！
二ちら二そ
ようしくお願いします！



●植生調査の説明です。

秋の草がら
森を知る

9月2日(土)

午後 13:00

●各グループで植生調査に挑戦

担当するコドラーートに移動して、それぞれ植生調査を行いました。



●上木がスギ、下木がヒノキの二段林です。



●林道沿いのコドラーートは植物の種類が多く刈られた株も多いです。あつて上級者向きでしょうか。



●広葉樹林の中のコドラーートです。中に入ると、意外と下草が少ないようです。



●密生して暗いヒノキ林です。植物の種類も数も少なく、斜面も急で、ちょっと心配な森林です。

午後 14:30

●名前の分からなかつた植物を持って集合し、図鑑を見ながら種類を同定



●名前の分からない植物の標本です。



●講師に、種類を見分けるときのポイントを聞きながら図鑑で調べます。

講師のコメント

今回は、みなさんが他の場所や他の季節に自分で調べができるように、植物の種類を見分けるときに着目するポイントを教えます。なるべく自分でがんばって、調べてみてください。

ちなみにシダを見分けるには、地下茎が重要です。

森林施業ガイドライン講習会③秋の草から森を知る 植生調査野帳		
調査地名 木下沢		
コドラーートNo. 8 斜面方位 南 林況等 杉林下木から間口2m		
調査年月日 18年9月23日 14:00~ 24:00 晴天 気温		
調査者		
1	2	3
4	5	6
7	8	9
10	11	12
13	14	15
16	17	18
19	20	21
22	23	24
25	26	27
28	29	30
31	32	33
34	35	36
37	38	39
40		

<結果一覧>出現した種名と出現コドラーート数

	種名	コドラーート数		種名	コドラーート数		種名	コドラーート数
1	アオキ	6	45	アラカシ	1	89	ヒカゲイノコヅチ	1
2	タチツボスミレ	5	46	イガホウズキ	1	90	ヒナタノイノコヅチ	1
3	チヂミザサ	5	47	イノコズチ	1	91	ビナンカズラ	1
4	コクサギ	4	48	イラクサ	1	92	ヒヨドリジョウゴ	1
5	ジャノヒゲ	4	49	イロハモミジ	1	93	フジ	1
6	ツタ	4	50	イワガラミ	1	94	フユイチゴ	1
7	ツユクサ	4	51	ウシハコベ	1	95	フユツタ	1
8	ミズヒキ	4	52	ウリノキ	1	96	フユツタ(キツタ)	1
9	ミヤマフユイチゴ	4	53	エゴノキ	1	97	ベニシダ	1
10	ヤマノイモ	4	54	エノキグサ	1	98	ヘビイチゴ	1
11	アブラチャン	3	55	オオヤマハコベ	1	99	ホウチヤクソウ	1
12	イボタノキ	3	56	オカトラノオ	1	100	ボタンヅル	1
13	オニドコロ	3	57	カナトヅル	1	101	ヤブマオ?	1
14	カタバミ	3	58	カラムシ	1	102	マタタビ	1
15	ハグロソウ	3	59	カラムシソウ	1	103	マツカゼソウ	1
16	ヤブコウジ	3	60	ガンクビソウ	1	104	ミズナ	1
17	アマチャヅル	2	61	キイチゴ	1	105	ミニガタテンナンショウ?	1
18	エイサンスマレ	2	62	キツタ	1	106	ムラサキシキブ	1
19	クサイチゴ	2	63	クサコアカリ	1	107	モミジイチゴ	1
20	クサギ	2	64	クワ(ヒメコウゾ?)	1	108	ヤブガラシ	1
21	クワクサ	2	65	ケチヂミザサ	1	109	ヤブマオウ	1
22	ケヤキ	2	66	ケヤキ?	1	110	ヤブラン	1
23	シケシダ	2	67	コチヂミザサ	1	111	ヤマウコギ	1
24	シロダモ	2	68	コナスビ	1	112	ヤマガシュウ	1
25	ティカカズラ	2	69	コボタンヅル	1	113	ヨツバムグラ	1
26	ヌスピトハギ	2	70	サネカズラ	1			
27	ヒメコウゾ	2	71	サンカクヅル	1			
28	ヘクリカズラ	2	72	サンショウ	1			
29	マルバウ	2	73	ジシバリ	1			
30	マルバスマレ	2	74	シダsp.	1			
31	ミツバアケビ	2	75	シダsp.	1			
32	ヤツツバキ	2	76	シラカシ	1			
33	ヤマブキ	2	77	スギ	1			
34	リュウノヒゲ	2	78	スゲ	1			
35	ガマズミ?	1	79	ススキ	1			
36	シケシダ?	1	80	セリ	1			
37	ヤブリテツ?	1	81	タケニグサ	1			
38	ナキリスゲ?	1	82	チドメグサ	1			
39	アオイスミレ	1	83	チャノキ	1			
40	アオカラムシ	1	84	ツルウメモドキ	1			
41	アオミズ	1	85	ツルキツタ	1			
42	アカネ	1	86	トキリマメ	1			
43	アケビ	1	87	ネムノキ	1			
44	アザミ	1	88	ノイバラ	1			

出現種数 113

“森のたからもの調査隊”研修④

鳥はどんな場所が好き?

目的

冬の明るい落葉樹林、スギ・ヒノキ林、沢沿い、森の上空など、どんな場所にどういう鳥が見られるのか、観察して記録します。

概要

林道をゆっくりと歩きながら、道の両側や上空にいる鳥を双眼鏡で観察し、記録用紙に、観察できた鳥の種類ごとに数を記録します。数は、鳥が使っている場所（枝の先、幹、地面など）に分けて記入します。

開催日

2007年2月24日（土）

天気

晴れ

人数

参加者6名 講師1名 スタッフ4名

講師

五十嵐亮太氏(西多摩自然フォーラム)

服装

長袖シャツ、長ズボン、山歩きのできる靴、手袋（軍手）、帽子

参加者持ち物

昼食、飲み物（水）、筆記用具、ワークシート、デイパック等、雨具、あれば双眼鏡、図鑑

調査用の備品など（講師・スタッフが用意）

図鑑、双眼鏡

ガイドライン該当ページ

70～72ページ、77ページ

●開講式、鳥の見方と双眼鏡の使い方レクチャー

最初に、双眼鏡のピントの合わせ方を覚えました。動いている鳥を双眼鏡で捉えるのは意外と難しいので、枝先の葉や遠くの木などの動かない物や飛行機などを見て練習し、鳥が現れたところで鳥の観察に挑戦しました。

講師のコメント

双眼鏡は、各自の視力に合わせて使います。先に右目のピントを合わせて、次に両目で合わせてください。ストラップはなるべく短くしておくと使いやすいですよ。

見たいものから視線をずらさないようにしながら、さっと双眼鏡を構えます。最初は動かないもので練習するといいですよ。



●双眼鏡で見る練習を兼ねて鳥や観察します。

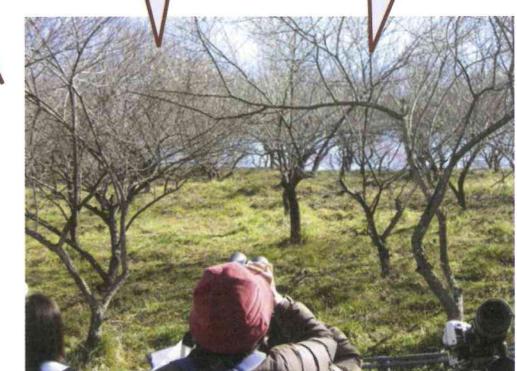


●双眼鏡で鳥の観察

双眼鏡の扱いに慣れてきたところで、鳥を観察してみました。いろいろな鳥が現れるたびに、講師がその鳥の生態や見分けるポイントなどを解説してくれました。

メジロの群れが来たよ！ 4羽かな？
5羽じゃない？

（講師が）
6羽いましたね。
…さすが！



●梅林のなかにホオジロやメジロが現れました。
(写真では見づらいですが…。)

講師のコメント

鳥は基本的にどこにでもいますが、種類によって平地を好むものもいれば山地を好むものもいます。

向こうの藪でウグイスが鳴っていますね。もう少しこそさん花が咲くとメジロ、ヒヨドリが多く見られるようになります。そうすると、それらの鳥を餌とするハイタカなどの猛禽類も現れます。

2
24
(土)

午・
前
12
9
10:30

午
12
後
13:30

●ワークシートを使って鳥の調査

林道を歩きながら鳥を観察し、鳥が現れたら種類と数をワークシートに記録しました。



●上空にまた猛禽類が。こちらは
ノスリです。トドより一回りは
小さく、色が白っぽいです。



●ホオジロです。「チチッ」という感じ

講師のコメント

「ものさし鳥」を決めておくと、鳥の大きさを想像しやすく図鑑で調べるにも便利です。ハト、カラス、スズメ、ホオジロなどがよく使われますが、自分が馴染んだ鳥でいいですよ。

●アニマルトラックを探す、まとめ、閉講式

午後は森の中を歩いて羽や巣などを探し、鳥のいた形跡から鳥の存在を探りました。観察を終え、講師が集めていた羽や巣のコレクション、図鑑、道具などを手にとって、今日の講習会を振り返りました。



●ヤマドリの羽を見つけました。

講師のコメント

羽軸(うじく:羽の中央の軸)が曲がったり、つぶれたりしているので、これは動物に襲われた跡だと思います。オオタカなどの猛禽類は襲った鳥の羽を抜き取るので、羽軸がもっときれいに残ります。



夏鳥の季節
にもやってみたしなー。

●図鑑にもいろいろなことがあります。これは、鳥の巣が載っている図鑑です。

鳥のいた場所を調べるワークシート

調査場所 梅林前 調査日 2007年2月24日(土) 時間 10:30~ : 天候 晴れ

●鳥を見つけたいた場所に「正」の字で記録をつきます。
スズメの割合 = 全ての観察数

鳥の名前	高木	低木 やぶ	草原	水辺	その他
	枝先	枝	幹		
ウグイス				1	2
カラス					2
メジロ		7			
ホオジロ				3	5
トビ					1 (上空)
コガラ		1			
エナガ	3				
ヒガラ	1			1	
シジュウカラ					
ミソサザイ					1
ルリビタキ	ト				1

●ワークシートサンプル

●今日歩いた場所では鳥の巣が見つかりませんでしたが、巣や、よく使っている木や場所を探すのも面白いですよ。森づくりをする場合にも、ちょっとした水場を作ったり藪を残したりすれば、鳥が使える場所になります。

講師のコメント

今日歩いた場所では鳥の巣が見つかりませんでしたが、巣や、よく使っている木や場所を探すのも面白いですよ。森づくりをする場合にも、ちょっとした水場を作ったり藪を残したりすれば、鳥が使える場所になります。

●調査結果一覧

(21ページ) 確認できた鳥

調査ルート1 梅林前 調査開始時刻 10:30

鳥の名前	高木			低木 やぶ	草原	水辺	その他
	枝先	枝	幹				
ウグイス				1			2
カラス							2
メジロ		7					
ホオジロ				3	5		
トビ							1 (上空)
コガラ		1					
エナガ	3						
ヒガラ	1				1		
シジュウカラ							
ミソサザイ							1
ルリビタキ	ト						1

調査ルート2 木下沢林道 調査開始時刻 11:50

鳥の名前	高木			低木 やぶ	草原	水辺	その他
	枝先	枝	幹				
ノスリ							1 (上空)
シジュウカラ					1		
ヒガラ					1		
メジロ					3		
ミソサザイ					1		



“森のたからもの調査隊”研修⑤

森の健康診断

目的

100円グッズなどの身近な道具を使い、市民でもできる簡単な方法で、スギ・ヒノキ人工林の調査を行います。

概要

1日目は室内で、愛知県内など各地で行われている「森の健康診断」の概要や調査のやり方についての講義です。2日目は現地実習で、スギやヒノキの人工林の中に「調査枠」を作り、簡単な植生調査、土壤調査、植栽木の本数・樹高・直径の測定などを行います。さらに測定した値から植栽木の混み具合などを計算して、森林の状態を調べます。

開催日

2007年2月17日（土）・18日（日）

天気

17日：曇り 18日：雨のち晴れ

人数

参加者16名 講師2名 スタッフ10名

講師

稻垣久義氏(足助きこり塾)
丹羽健司氏(矢作川水系森林ボランティア協議会)

服装

長袖シャツ、長ズボン、山歩きのできる靴、手袋（軍手）、帽子

参加者持ち物

昼食、飲み物（水）、筆記用具、ワークシート、デイパック等、雨具

調査用の備品など（講師・スタッフが用意）

チョーク、選木テープ、ノギス、調査枠設定ロープ、ものさし、方位磁石、直径巻尺、クリップボード、地図

ガイドライン該当ページ

206～207ページ

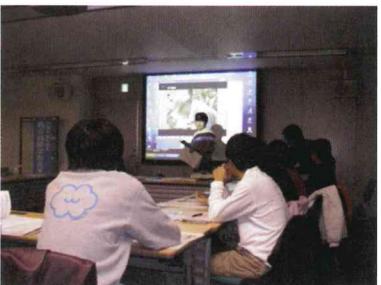
2
17
（土）
午後
12時30分
13:00開講

●開講式、講義①「森の健康診断」ってなんだろう

最初に、愛知県矢作川流域で行われた「森の健康診断」の様子を記録したDVDを鑑賞しました。続いて、「森の健康診断」が行われるようになった背景やきっかけ、目指していること、関わっているボランティアの想いなどについて、スライドを見ながら講師の話を聞きました。



●真剣に、講師の話に耳を傾けました。



●映像から、実際の「森の健康診断」の雰囲気が伝わってきます。

1
15:00
12時30分

●「森の健康診断」のやり方、質疑応答、閉講式

明日の実習に向けて、調査グッズの紹介と使い方説明を受けました。全体を通しての質疑応答を行い、1日目の室内講義を終えました。



●調査道具の使い方を、一つずつ手にとって教えていただきました。



子どもたちも参加できるのかな？

講師のコメント

子ども用のプログラムも作り始めていますよ。ちょっと難しい部分を紙芝居にするなど工夫すれば、同じ流れでも大丈夫そうです。子どもたちも森に入って、森を見る目を広げてもらえばいいですね。

「健康な森」は、確かに簡単には表現できないですね。私たちも探っている段階です。植生が豊かなのは、一つの見方かもしれません。森や自然の仕組みやつながりは本当に複雑です。

森の健康診断

2
18
(日)午・
前
9
12
10:00

●開講式、雨宿りをしながら自己紹介

雨がやや強く降っていたので、あずまやで小降りになるの待ちながら、自己紹介をしたり昨日の感想を語り合ったりして時間を過ごしました。

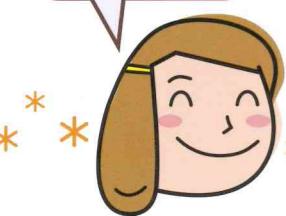


●雨の中、講習会会場へ向かいます。

●写真を見たり、これからやってみたい活動について語り合ったりと、雨のおかげで楽しい時間になりました。

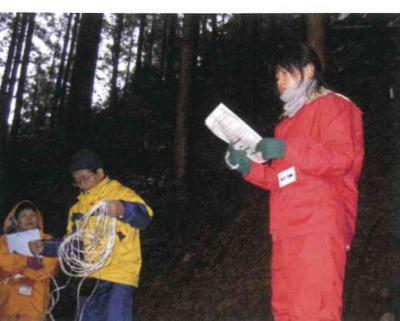
講師のコメント

皆さん、これから「森の健康診断」を開催するならグループリーダーになる可能性がありますね。リーダーには楽しさを伝えるという大事な役割があります。「気づきと学びの連鎖」と私は呼んでいますが、それを楽しく広げていけるといいと思います。

2
24
(土)午・
前
9
12
10:45

●二つの班に分かれて、それぞれ「森の健康診断」

班ごとに、午前・午後1ヶ所ずつ「森の健康診断」をしました。調査場所は2ヶ所、明るいスギ林と間伐の遅れたヒノキ林を選び、二つの班が午前と午後で場所を交代して行いました。



●土壤調査や傾斜測定など担当を決めて、分担して調査しました。マニュアルを読む担当もあります。



●植生調査用に、5m×5mの調査枠を斜面と平行に設置します。

ニニは斜面の角度がきついなー。

講師のコメント

効率を追う必要はないので、落ち着いてゆっくりと、一つずつ進めていけばいいですよ。測定に入る前に、ちょっと上を見上げてみましょう。中心木の周りを何本ぐらい間伐すればいいと思いますか。自分なりに見当を付けて、最後に調査結果と比べてみてください。

わっ、滑ったー！



●斜面の勾配を、傾斜角度計で測ります。

森の健康診断

2
17
(土)午・
前
9
12

えーと
二れど二ねは同じ。
二ねは草ではなくて
木の実生。それから
二ねは…



●移植ゴテで地面を掘り、腐食層の厚さを調べます。

●植生調査では、調査枠の中で見つけた全種類の植物の葉を、草本・木本別に白いシートの上に並べて写真を撮り、それぞれの種類数を記録します。

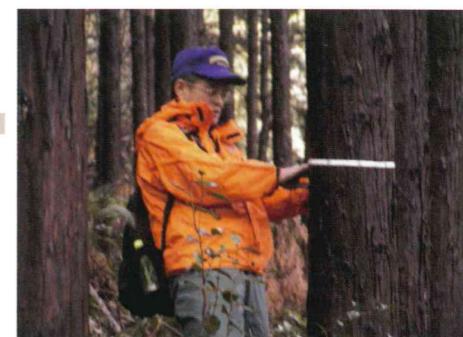


講師のコメント

同じものが混じっていないか、よく観察しましょう。まだ小さい木本は、草本と区別がつきにくいかもしれません。ここは植物が好きな人、植物に詳しい人の出番ですね。



●植栽木の調査です。中心木の脇から釣竿を水平に回して半径5.65mの円を描き、その中にある樹木の胸高直径を測ります。



●直径巻尺は、普通の巻尺に直径を書き込んだ手作りです。



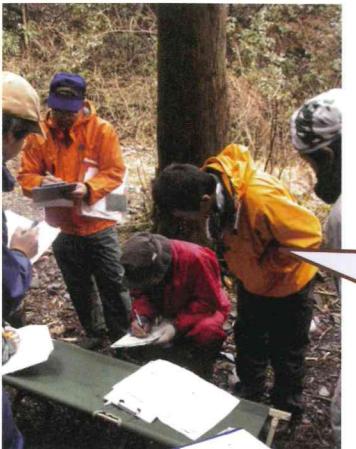
●木のすぐ横で垂直に伸ばした釣竿を自段にして、

中心木の樹高を目測で測ります。



●樹高はちよっと本格的に、三角関数を使った所から、木との距離や角度を測ります。

森の健康診断



調査が全部終わったら 記録係が測定した結果を読み上げて、みんなで記録を共有します。



●午後には日光が差して、水滴が輝いていました。

1. 人工林の植生調査票【植栽木以外の調査】

地図名	ポイント

調査地メモ: (No.1-1 (午前の調査))

調査日: 2007年2月18日(日)

調査者: グループ名 2班
リーダー名 稲垣

■立地と土壤

○森林の種類: 人工林 植栽樹種 (スギ ヒノキ カラマツ)

調査面積: 5 × 5 m

標高: 約 330 m

○斜面の向き: 北 北東 東 南東 南 南西 西 北西

○斜面傾斜角度: 37°

○落葉層の状況: ない まだら ある
(被覆率0~50%) (被覆率50%以上)

○腐食層の状況: ない まだら状 ある (0~2cm) 2~5cm 5cm以上

■林床の植生; 草と低木の調査 (高さ1.3m未満の木本、草本が対象):

○被覆率(%): 0~20 20~40 40~60 60~80 80~100

○草の種数: 草 4 種類

○低木の種数: 木 6 種類



■樹木【植栽木以外の調査】の調査 (高さ1.3m以上の木が対象):

○胸高直径DBH
(高さ1.3mの位置で測定):

○種類: 0 種類

●ワークシートサンプル

森の健康診断

●調查結果一覽

(1) 調査ルート1 木下沢梅林前

(2) 調査ルート2 木下沢林道

＜結果一覧＞森の健康診断

調査面積は、植生調査は 25m² (5m×5m のコドラーート)、人工林の込み具合調査は 100m² (中心木から半径 5.65m の円形プロット)。

調査ポイント1 ヒノキ林 標高約330m

	1班	2班		
	調査結果	備考	調査結果	備考
1.人工林の植生調査【植栽木以外の調査】				
■立地と土壤				
斜面の向き	南		南東	
斜面傾斜角度	35°		37°	
落葉層の状況	まだら(被覆率0~50%)		ない	
腐食層の状況	ない		ある(0~2cm)	
■林床の植生;草と低木の調査(高さ1.3m未満の木本、草本が対象)				
被覆率(%)	0~20		0~20	
草の種数	4		4	
低木の種数	8		6	
■樹木【植栽木以外の調査】の調査(高さ1.3m以上の木が対象)				
	該当なし		該当なし	
2.人工林の込み具合調査【植栽木のみの調査】				
①林分の状況				
枯損木	なし		あり	
タケの侵入	なし		なし	
②胸高直径				
測定本数(本)	19		18	
平均胸高直径(cm)	21.5		22.1	
③樹高(m)				
a) 鉤竿による測定				
中心木	15, 18, 19	※3つの意見	17, 18, 19, 20	※4つの意見
平均直径木	16, 17	※2つの意見	—	※中心木の直径がほぼ平均直径
④平均林分形状比				
⑤ha当たり本数(本/ha)	72		79	
⑥平均樹間距離(m)	1900		1800	
⑦込み具合Sr(%)	2.3		2.35	
	15		13.5	

調査ポイント2 杉林 標高約270m

	1班 調査結果	備考	2班 調査結果	備考
1.人工林の植生調査【植栽木以外の調査】				
■立地と土壤				
斜面の向き	南		南西	
斜面傾斜角度	30°		36°	
落葉層の状況	まだら(被覆率0~50%)		まだら(被覆率0~50%)	
腐食層の状況	まだら状		ある(0~2cm)	※石が多い
■林床の植生;草と低木の調査(高さ1.3m未満の木本、草本が対象)				
被覆率(%)	0~20		40~60	
草の種数	2		8	
低木の種数	7		17	
■樹木【植栽木以外の調査】の調査(高さ1.3m以上の木が対象)				
該当なし			該当なし	
2.人工林の込み具合調査【植栽木のみの調査】				
①林分の状況				
枯損木	なし		なし	
タケの侵入	なし		なし	
②胸高直径				
測定本数(本)	12		9	
平均胸高直径(cm)	24.7		27.4	
③樹高(m)				
a) 鉤竿による測定				
中心木	15、18	※2つの意見	14~15	
平均直径木	一	※測定せず	一	※測定せず
④平均林分形状比	70		56.9	
⑤ha当たり本数(本/ha)	1200		900	
⑥平均樹間距離(m)	2.85		3.33	
⑦込み具合Sr(%)	15.8		21.3	

“森のたからもの調査隊”研修⑥

ゾーニングと 目標設定のワークショップ

目的

地図と付箋を使って、「森で気づいたことや想いを伝えあい、まとめる方法」「森の価値や将来像をゾーニングに表す方法」を体験実習します。

概要

1日目は地図と付箋を持って実習対象地を歩き、目に留まったものや気づいたこと、着想などを各自が付箋に書き、どの場所のことか分かるように付箋と地図に合い印をつけます。

2日目は室内で、アイスブレークを行ったあと、1日目に各自が書いた付箋を大きな一枚の地図の上に貼っていきます。話し合いながら、同じ価値を持っていると思うところを線で囲んでゾーニングします。

開催日

2006年12月9日（土）・10日（日）

天気

9日：雨 10日：晴れ時々曇り

人数

参加者3名 講師1名 スタッフ3名

講師

吉武美保子氏(特定非営利活動法人 よこはま里山研究所)

服装

長袖シャツ、長ズボン、山歩きのできる靴、手袋（軍手）、帽子

参加者持ち物

昼食、飲み物（水）、筆記用具、デイパック等、雨具

調査用の備品など（講師・スタッフが用意）

ワークショップ用の文具・備品など（講師・スタッフが用意）

対象地の地形図（A4）、色違いの付箋紙（75mm×75mm程度の大きさで3色程度）、サインペン、クリップボード、方位磁石、既存の資料（例：広域の地形図、植生図や地質図などの各種地図、対象地域の植物誌や動物誌、各種の調査結果、市町村史など）、トレーシングペーパー6枚（A1）、水性のカラーペンや色鉛筆

ガイドライン該当ページ

23~24ページ、103~105ページ



●開講式

木下沢の入口に集まって、自己紹介とスケジュール確認、付箋の書き方の説明で始まりました。本来は、3色の付箋の束と地図を手に持って書き込みながら歩きますが、この日は雨だったので、見つけたものや気づいたことを覚えておき、昼の休憩時に屋根の下でまとめて書くことにしました。



●雨にも負けず、木下沢の森を目指します。



●緑の付箋には「森で見つけたもの」を、ピンクの付箋には「着想」を、黄色の付箋には「場所やもののネーミング」を書きます。

講師のコメント

今日は五感をフル稼働させて、自由な発想で、森のいろいろなものや自分のなかのアイディアを見つけていきましょう。鳥の目線でマクロに眺めたり、虫の目線でミクロに観察したりするのも大切です。

●実習①森の探検～気づいたことを記録する～

対象地をゆっくりと歩き、見たり、聞いたり、手で触れたりしながら、気づいたことや浮かんできたアイディアなどを頭の中にメモしていました。



●実習地までの林道は、五感で森をつかむ練習をしながら進みました。まだ紅葉が残る山に霧が立ち上り、日本画のような景色でした。



●すっかり葉を落とした広葉樹林です。同じ場所にいても、各自の感性で違うものが発見できます。



講師のコメント

自然の中を歩いてきて、五感のアンテナの感度が上がって、会話も弾んできましたね。自分の中に湧いてきた気持ちやアイディアを語り合い、仲間の声に耳を傾け合いましょう。このコミュニケーションがとても大事ですよ。

12
9(土)

の続き



●対象地の入口に到着しました。ここからは山の中の道を歩きます。



●スギ林の中の明るいところに、クリがありました。



●フユイチゴの真っ赤な実を見つけました。食べられる実です。



●スギとヒノキの二段林を育てている場所もあります。



●木下沢の流れです。沢に下りやすい場所なので、夏には水遊びをしている人もみられます。

岩のある曲がり角…
目印によさそう。

名前をつけたくなる
岩だね。



●山道がカーブしたところに、壁のような岩が露出していました。

講師のコメント

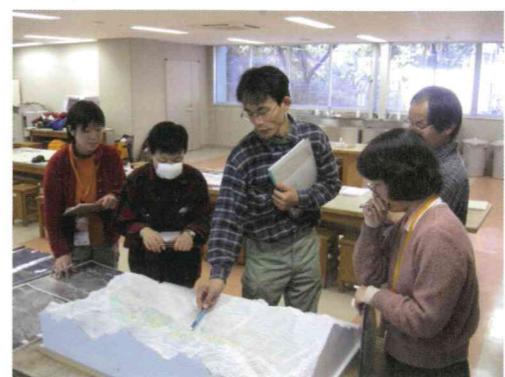
いろいろな発見があったみたいですね。ほとんど全員が「気になる」と思ったものもあれば、一人だけが気づいたものもあるかもしれません。また、みんなが同じ場所で似たような感じを持つことあるし、それぞれ違う想いが湧いてくることもあります。明日の室内実習では、お互いの想いや気づきを出し合い、交換していきましょう。

12
10(日)

午・1
前
10:00 開講

●対象地の資料を見て、イメージを広げる

実習会場に、対象地に関する様々な地図や資料と、1日目に撮影した写真を用意しました。これらを見ながら現地での実習を振り返り、客観的な目線も加えて、対象地へのイメージを広げます。



●立体模型で、歩いたコースを振り返りました。



●地図の周りに広げた写真を見ると記憶が鮮明になって、イメージも広がります。

午・1
前
11:00

●グループコンセンサスの アイスブレーク

ゾーニングを始める前に、意見交換をしながらグループコンセンサスをとるアイスブレークを行って、心と頭の準備を整えました。

基本的な情報の共有は、その森を知って、みんなが納得できる共通の目標を見つけていくのに必要なんだね。

- A.電気を二度めに消す
- B.牛肉をひかえる
- C.レジ袋をもらわない
- D.木の製品を使う
- E.生命の尊さをまわりに伝える



●アイスブレークのテーマは「環境保全活動で大切なことは何か、次の5つを優先順位の高いものから並べてみましょう」です。

うーん。どれも大事そうで優先順位を付けるのは難しいなあ。

講師のコメント

同じような志を持った人たちが少人数集まても、それぞれ違う意見を持っています。同じ言葉でも人によって別の解釈をしていることがあります。森づくりで共通の目標やゾーニングをまとめるには、言葉の意味も含めて議論を尽くし、お互いの考えを聞き合うことがとても大事だと、実感してもらえたのではないか?

G	石田 実吉 水
E	1 C C D E E
C	2 A A E A D P
A	3 D D C B B
B	4 B B A D A
D	5 E E B C C

根気よく、お互いを大事にしながら意見交換すれば、絆も深まるね。

●ホワイトボードにみんなの意見を書いてから、お互いの意見交換をしました。時間はかかりましたが、最後は結論をまとめることができました。

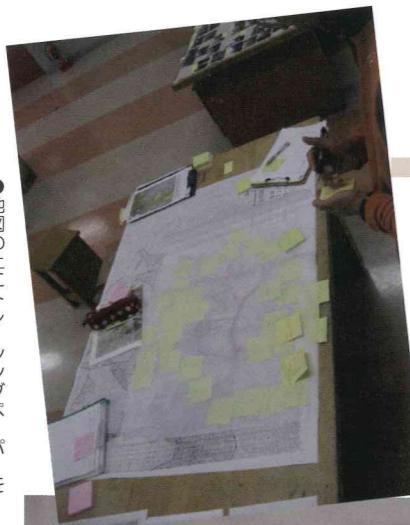
12
10
(日)

午後
12
ス
13:00

や
り
遂
げ
た
く
!

●実習②ゾーニングと目標設定のワークショップ

1日目に森を歩いて抱いた印象、森の将来イメージなどを語り合い、気づいたことを交換します。各自が森で書き込んできた付箋を、共通のトレーシングペーパーに寄せて、語り合います。次に、交換した気づきや様々な情報を確かめながら、森づくりへの提案、場所への命名、同じ価値を持っている場所を囲んでゾーニングをします。最後に、森の将来像のイメージを考え、表現します。

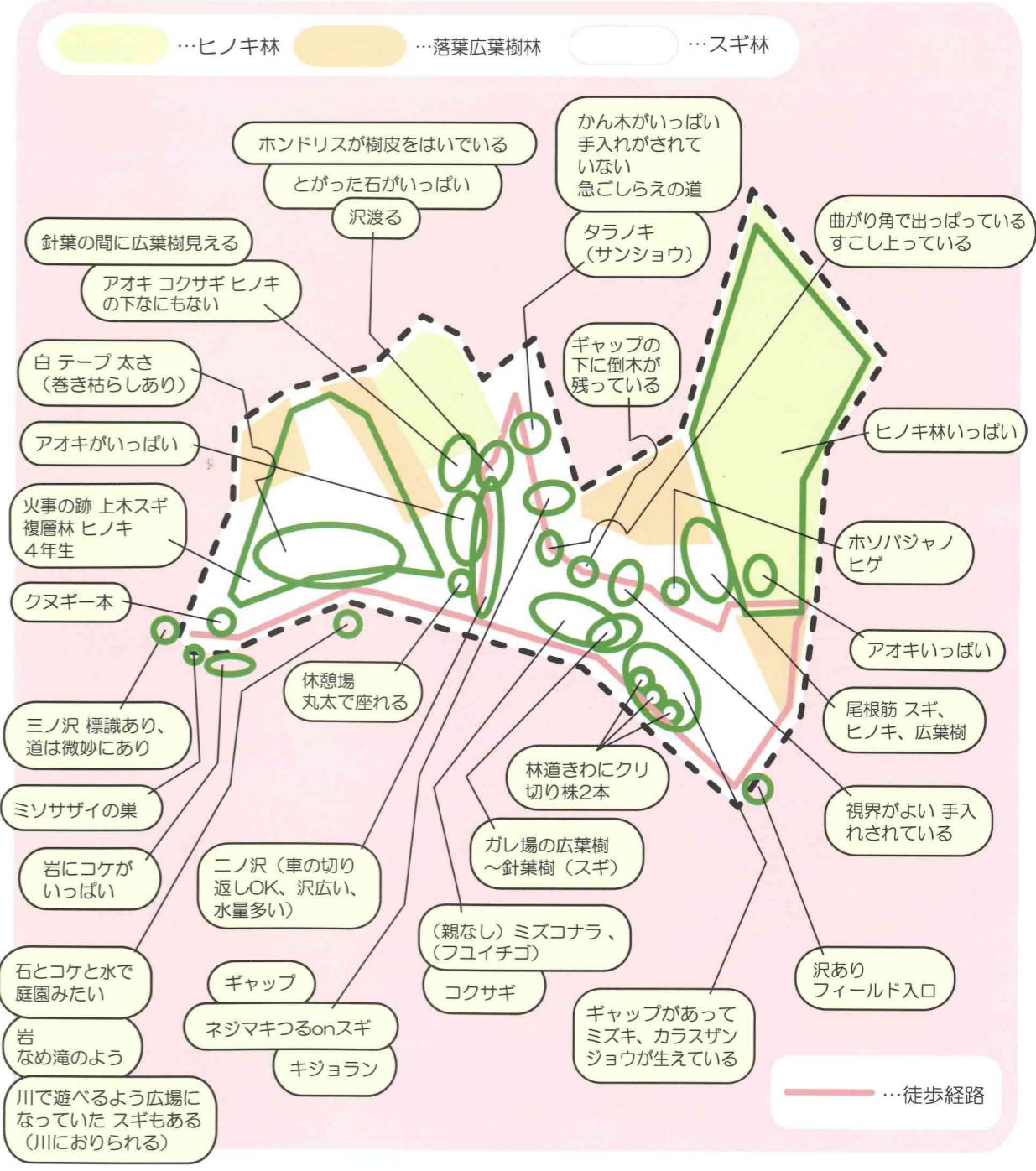


講師のコメント

ゾーニング図と、明文化した目標ができましたね。お疲れ様でした。「憲章」や「目標」の明文化は、新しい人が関わるようになっても時間がたっても、「ここに戻れば大丈夫」という原点を作るという、とても重要なことです。今回の実習を、これから活動にぜひ役立ててください。

●【地図1】気づいたことを《みどりの付箋》に記録する

地図を持って対象地を歩き、各自が「気づいたこと」「見つけたもの」を、緑色の付箋に記録します。1枚の付箋には一つの事柄だけを書きます。気づいたことが点なのか、線なのか、面なのか分かるように、地図にくくりを入れて、場所の対応が分かるように付箋と地図に合い印をつけておきます。現地調査から帰ったら、一枚の大きな地図の上にトレーシングペーパーを一枚重ねて、各自が記録した付箋を貼り付けていきます。そのときに、「私はここで、○○を見つけました」と、全員に伝えながら貼り付けます。全ての付箋を貼り終えたら、おこったことや感じたことをざっくばらんに語り合って、お互いの考えを知るようにします。

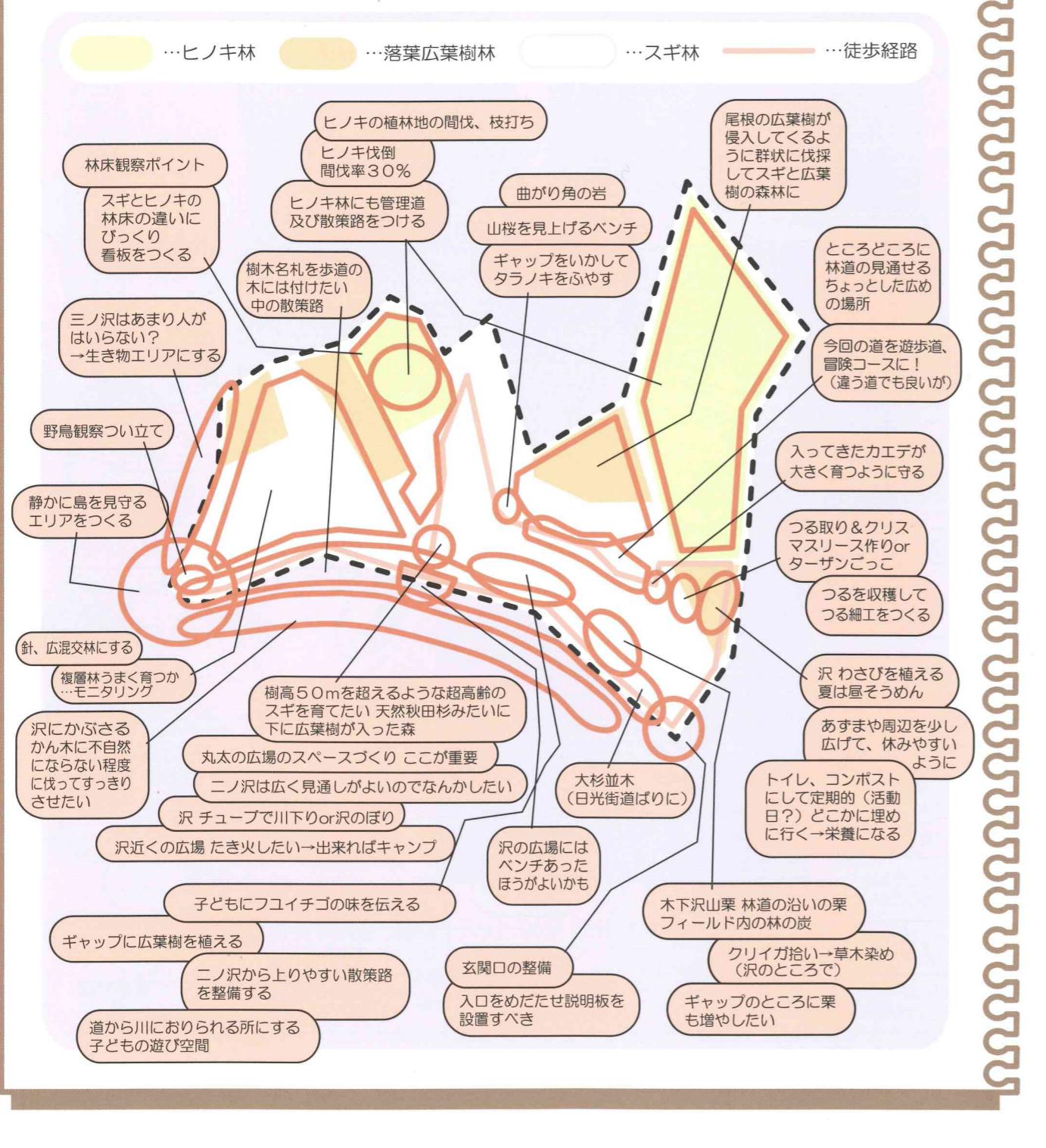


●【地図2】着想したことを《ピンクの付箋》に書き留める

ピンク色の付箋には、「ここは将来こんな森になるといいな」などの着想を書きとめていきます。着想を持ったものが点なのか、線なのか、面なのか分かるように、地図にくくりを入れて、場所の対応が分かるように付箋と地図に合い印をつけておきます。

現地調査から帰ったら、緑色の付箋を貼ったトレーシングペーパーの上に、もう一枚トレーシングペーパーを重ねて、ピンク色の付箋を貼り付けていきます。

着想は、「私はこう思う」という自分の希望や期待であると同時に、森の現況や周辺の環境を踏まえた社会性のある客観的な希望や期待でもあることが重要です。

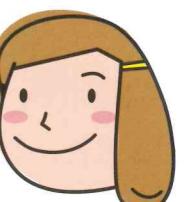
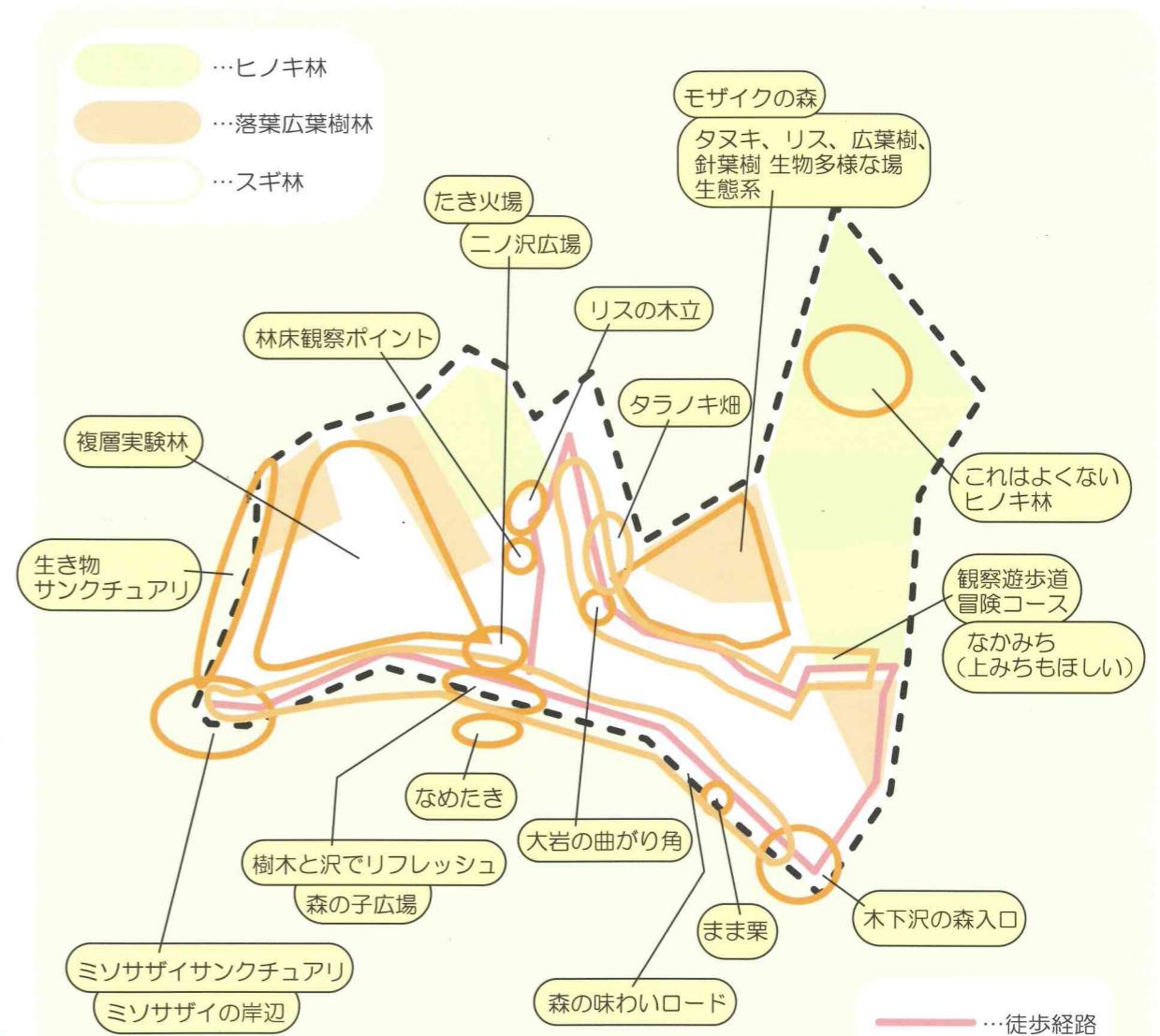


●【地図3】空間の名前を考えて《黄色の付箋》に書く

これまでの情報から、「ここにはこんな名前をつけて大事にしたい・みんなに知らせたい」という場所に、名前をつけてみます。

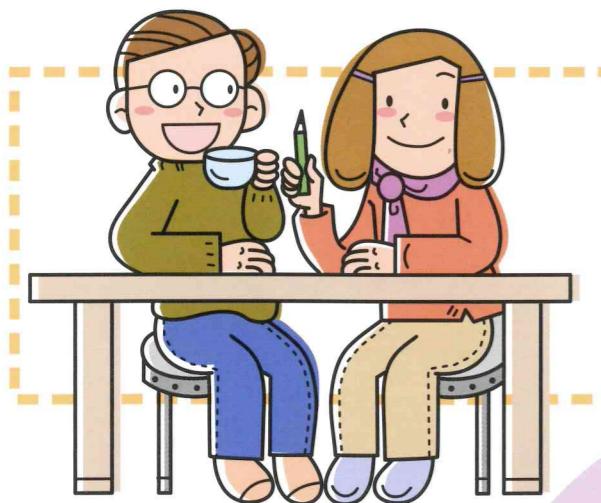
更にもう一枚トレーシングペーパーを重ねて、考えた名前を書いた黄色の付箋を貼り付けていきます。名前をつけたいものが点なのか、線なのか、面なのか分かるように、地図にくくりを入れて、場所の対応が分かるように付箋と地図に合い印をつけておきます。

実際には、森のなかの道や谷や尾根など各所に、地元ならではの呼び名があるものです。そういった名前を受け継いでいくことは大切ですが、ここでの命名はコンセプトを明確にしていくためのプロセスの一つなので、自由な発想でつけてかまいません。



●ゾーニング図「価値の等高線」で空間を図る

重ねたトレーシングペーパーを見て話し合いながら、保全すべきものや将来実現したいことなど、同じ価値を持っていると思うところを線で囲んでゾーニングします。範囲を囲んだら、その区域を代表すると思われる価値を簡潔に示した名称をつけます。



サンクチュアリ

ミソサザイの岸辺
*観察できる空間づくり

林床観察林

複層実験林

森の子広場

すくすく広場

地元の名
*沢の名前

これは○○ヒノキ林

地元の名
*沢の名前

フィットンチッ道
香り道
ヒノキチロード

見晴らしロード

20~30年は森の味わいロード
そのあとは大下沢杉並木
*明るい空間づくりが必要

お休處
基地(もりきち)

入口(機能)
*地元の人の呼び名で決める

モザイクの森
*変動する

自主観察会・交流会

**3(土)
3(日)&
4(日)**

●生き物自主観察会

2006年9月2日（土）～3日（日）の生き物調査講習会に参加したメンバーを中心に、篠田さんに講師をしていただき「シャーマントラップを使った小型哺乳類調査」「水生生物調査」「鳥類調査」を行いました。今回もヒメネズミとハタネズミを捕獲することができました。また、篠田さんが「水のきれいな山の渓流にしか生息できない種類です」と話すトピケラ類や、更に奥の尾根にはオオタカも観察でき、収穫の多い観察会でした。



●川底の落ち葉をすくった中から水生生物をピンセットで拾い集め、実体顕微鏡で観察しました。



●数ミリ～数センチのいろいろな水生生物が見つかりました。（山下一さん撮影）



●2匹のヒメネズミが入っていたトラップもありました。

**3(水)
祝日
21**

●木下沢交流会

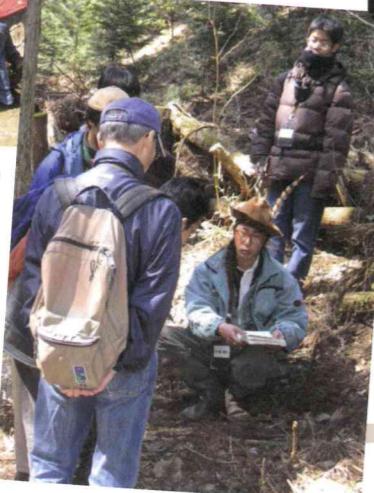
この2年間、“森のたからもの調査隊”やその他の催し物で木下沢を訪れた人たちが木下沢に集い、五十嵐さんの解説で鳥を観察したあと、チーズフォンデュを楽しみました。午後は「高尾グリーンセンター」に移り、森への想いや将来やってみたいことを語り合って交流を深めました。



●道草を食いながら、和気あいあいの観察会。



●持ち寄った食材とチーズソースで、チーズフォンデュの昼食です。



●猛禽類に襲われたトラツグミの羽を林道端で発見しました。



●集合して記念写真を撮りました。

おわりに

2006年度の森林施業ガイドライン講習会では、八王子市裏高尾町の木下沢都有保健保安林にて、哺乳類、昆虫、植物、樹木、鳥と一緒に自然関係の調査と、目標設定とゾーニングのワークショップを行いました。その結果、たくさんの動物や植物の存在を、作業が好きな人や観察が好きな人など多様な人たちとともに、知ることができました。講習会の通称“森のたからもの調査隊”研修のとおり、森の様々なたからものを発見できた、楽しい一年間でした。

調査やワークショップを体験してみると、今度は「他の場所には何がいるだろう」「他の季節の植物も知りたい」「将来は生き物のインベントリーがあれば」「地元の人たちによる、昔の森との関わりは」など、新しい展開も想い浮かんできます。そして、この森の何を守り育て、どんな人がどう関わっていけばいいのか、この森ならではの「豊かな森」とはどのような将来像なのか、そのためにどう働きかけていったらいいのか、あらためて考えさせられます。

講習会では、森づくりのステップの一部を体験しました。実際の森づくりは更に総合的なものであり、継続性も求められます。みんなで描いた目標に向かい、目的に沿った調査を積み重ねて情報を集めていくことが大切です。そして情報をどのようにまとめ、伝えて、計画に反映していくのも、重要なことです。今後は、こういった次の段階も念頭に置いて、発展的な講習会を開催していくべきだと思います。

「市民参加の森づくり活動における森林施業ガイドライン」と講習会が、各地での皆様の活動と連携しながら、信頼される市民参加の森づくりの発展の一助となっていくことができれば幸いです。

特定非営利活動法人 森づくりフォーラム

■講師（敬称略、五十音順）

天野 正博（早稲田大学）

五十嵐 亮太（西多摩自然フォーラム）

稻垣 久義（足助きこり塾）

勝木 俊雄（独立行政法人森林総合研究所）

篠田 授樹（地域自然財産研究所）

丹羽 健司（矢作川水系森林ボランティア協議会）

藤田 薫（財団法人日本野鳥の会、横浜自然観察の森）

吉武 美保子（特定非営利活動法人よこはま里山研究所）

■写真提供（敬称略、五十音順）

五十嵐亮太

山下一

■作成協力（敬称略、五十音順）

有島 沙織（早稲田大学）

石橋 翔太（早稲田大学）

清水 あゆみ（早稲田大学）

力石 晴子（早稲田大学）

新妻 康平（西多摩自然フォーラム）

宮崎 和彦（ボイスカウト北多摩地区ローバース）

2006年度 森林施業ガイドライン講習会

初版発行 2007年3月30日

発行者：内山 節

発行所：特定非営利活動法人 森づくりフォーラム

〒113-0033 東京都文京区本郷3-2-3 斎藤ビル3階

TEL. (03) 3868-9535 FAX. (03) 3868-9536

・企画・執筆/吉村 妙子（特定非営利活動法人森づくりフォーラム）

・編集協力/村田 央（（株）ぶどう）

・カット・レイアウト/勝野 真美